南部アフリカ 柑橘類の輸出予測を引き上げ

[FreshPlaza 2025年8月15日](#)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、今シーズンの輸出予測を1億8,820万箱(15kg/箱)に修正した。これは、当初の予測である1億7,100万箱より10%多い。この増加は、最近の品目別部会の結果を受けたものであり、加工用品質の果汁用オレンジ及び果汁用レモンに対する海外需要の増加、良好な気象条件、及び生産効率の向上によって促進されている。シーズン序盤の北半球における需要の高まりも、レモンとオレンジの出荷を前進させた。

CGAの最高経営責任者(CEO)であるボイチョコ・ンシビリ博士は、バレンシアオレンジの数量は5年間の平均と一致しており、同協会の長期的な成長戦略に適合していると述べ、「数量だけではもちろん業界を測る指標の1つにすぎない。貿易の混乱とは別に、投入コストの上昇と欧州連合による継続的で非科学的かつ不公正な植物検疫上の貿易障壁も、生産者に影響を与えている。2025年には1億8,820万箱の出荷が予想されており、業界は目標の達成に向けて順調に進んでいる。しかし、この数量を雇用の創出に結びつけるには、増加した柑橘類の市場を見つけなければならない。したがって、市場の維持・拡大が不可欠である」と語った。

ネーブルオレンジの輸出量は現在、当初予測の2,610万箱を11%上回る2,960万箱と予想されている。バレンシアオレンジは5,450万箱に達すると予想されており、当初の5,200万箱より4%多い。ネーブルの収穫はすでにピークを過ぎており、バレンシアの出荷は現在も続けているが8月下旬から9月中旬にかけて徐々に減速する見込みである。

マンダリンの予測は4,490万箱から4,930万箱に9%増加し、現在晩生品種が梱包されている。レモンの予測は、3回目の開花による着果の多さと安定した市場の需要に支えられて3,960万箱に引き上げられた。グレープフルーツの輸出はほぼ完了しており、最終的な出荷量は1,500万箱と推定され、当初予測の1,530万箱をわずかに下回っている。

ンシビリ氏は、生産者及び輸出業者に対し、出荷を市場のニーズに合わせるよう助言し、「果実の品質は素晴らしい。シーズン全体が2024年より約2週間早まっており、北半球からの供給にスムーズに移行することができる」と述べた。

CGAのポール・ハードマン最高執行責任者(COO)は、2025年には設備の追加と新しい管理戦略により、港湾がより効率的に運営され、早期の出荷が可能になったと指摘した。しかし、収穫量の増加により、今後数週間は果実を迅速にさばき続ける必要性を強調した。

ンシビリ博士は8月7日に発効した南アフリカ産柑橘類に対する米国の30%の関税について、今シーズンは期限前の出荷を加速したことで影響が軽減されたとしつつ、「しかし、相互に有益な貿易合意が達成されなければ、残念ながら次の輸出シーズンには関税の影響を全面的に受けることになるだろう」と述べた。